



遊心亭

昭和初期建立の伝統的家屋(アズマダチ)。築90年あまり。富山市の企業(株式会社ユニゾーン)が家屋と庭園を再生。2009年1月より、社員研修の場、ゲストハウスとして活用。地域の人々の利用も可能。



5 先人たちを敬い、 対話しながら住まう

文化人や茶人たちも愛した
人との対話から新たなエネルギーが生み出される場所。



人の手をかけて、 残し、守り、磨き、使う

人通りの少ない旧街道沿いにひっそりと佇む遊心亭は、驚くほど豪華で広大で、古民家というより文化財というほうがイメージに合う気がする。アズマダチのオモヤを中心に、離れ、茶室、立派な庭園があり、全部を見てまわるだけで半日はかかってしまうほどだ。

「県内の古民家が荒れているのを放っておけない」と富山市に本社のある株式会社ユニゾーンが買い取り、改修・再生した。研修所として社員のスキルアップやコミュニケーション促進の場として使われているだけでなく、大切なお客様をもてなすゲストハウスでもある。事前予約が必要だが、一般の利用もできる。600人のお茶会が催されたこともあるそうだ。

この家には、前述の企業の社員が住んでいる。住みながら、掃除や管理をするのが仕事だ。「杉苔を傷つけないように、草むしりは手でやるんです」また、「いつもお客様が来られてもいいようにきれいに」しておくのさそうだ。まるで、この家に住んでいた先人たちと対話するように朝から晩まで、家を磨く。ここを訪れる著名人や文化人も多い。「価値あるものを最高の状態でお見せるのも、大切なおもてなしだと思うのです」人に見せることのない積み重ねが、人の心を動かすのだと改めて感じた。

「地方の文化や生活を守れ」口で言うのは簡単だが、この企業は違う。実際、こんなに立派に再生している。さらに、人が使うことを前提として、人の手をかけた維持・管理・活用がされている。常に、中心に人がいるということが、この企業のすごさだと思った。

1 お客様用の玄関 2 6~9月、襖は簾戸(すだ)になる
3 10名はゆったりと座れる掘りゴタツ 4 掘りゴタツから外を眺める 5 不思議に落ち着くという茶室
A B 鶴を象った襖の引手 C ドアの取手。扉の持ち手も、部屋ごとに違うデザイン。D 正面玄関入ってすぐのワクノウチに6つ並んで掛けられた、漆塗りの提灯箱

